



公民館館報

いんぎらあと

公民館館報 第61号
西南部公民館
編集 広報部
TEL 240-8860 FAX 240-8960
(E-mail)
seinanbu-k@spacelan.ne.jp



■CONTENTS

南部ブロック研修会・遺跡巡りツアー
市民ソフトボール大会・社会体育大会
文化祭・校下防災訓練・お楽しみバスツアー
花と緑の出前講座・町会連合会記念大会
特ダネ西南部 (GRANDE、金沢マラソン)

平成29年9月24日(日) 社会体育大会



九月二十四日(日)、西南部小学校にて社会体育大会が開催されました。当日は雨が心配されましたが、秋晴れの青空が広がった一日でした。各町会から多くの人に参加し、一生懸命走ったり力を合わせて頑張る姿を見て、応援にも熱が入っていました。(澤田秀徳)



つなげ! 勝利のバトン 優勝めざして 一直線!!

優勝—八日市出町町会
二位—西金沢二丁目町会
三位—西金沢新町西町会



チームワークの勝利

清水誠(八日市出町町会長)

平成二十九年年度の社会体育大会で、私たち八日市出町は優勝することが出来ました。たくさんの幸運にも恵まれましたが、町会の皆さんの息のあった団結が勝因ではないかと思えます。八日市出町は、平均年齢も若く、一人ひとりの運動能力も高いのですが、運動会には、ムカデ競争や綱引きなど、参加者のチームワークが求められる競技も多数あります。今年はこのらの競技でも高得点が獲得でき、優勝につながりました。特に男子ムカデ競争では、スタート直後にリズムが合わず一旦ストップしてしまったにもかかわらず、持ち直してからはアウトコースからゴボウ抜きで、結果的に一位でゴールすることが出来ました。

また、応援席も手拍子と声援でムカデチームの逆転を後押しできたのではないかと思います。これも、八日市出町全体のチームワークの賜物だと思えます。八日市出町は、このチームワークを大切に、これからも、より良い地域づくりを目指していきたいと思えます。

遺跡巡りツアー

悠久の遺跡巡り

八月二十六日（土曜日）、金沢市埋蔵文化財センターの庄田知允さんと参加者三〇名を乗せ、能登へ向かい、西方寺古窯跡と真脇遺跡を見学しました。

真脇遺跡は、広い敷地から縄文時代の大量の出土品があり、チカモリ遺跡と同じような巨大な木柱列が発見されている興味深い遺跡でした。

(種本敏美)

遺跡巡りツアーに参加して



久保喜美代（古府町南第二）

八月二十六日、珠洲へ行って来ました。個人ではまず行かない、すり鉢を作っていたという西方寺古窯跡を、地元案内人の小野さんとともに見学。焼成室が完全に残っているのは全国でも珍しく、国の史跡になっているそうです。

真脇遺跡では真脇遺跡縄文館館長自ら説明してくださいました。二〜三年もかけて再現された縄文式住居には驚きました。石斧や、るふじづるで作った縄など、当時の道具や材料にこだわって作られたそうです。鉄器の方が五〜六倍も効率がいいけど、鉄がなかったから四〇〇〇年も続いた全国でも珍しい長期

定住集落、しかも、循環型社会だったそうです。

また、二〇〇九年には環状木柱列を復元。近くに小学校が建つ前は滝が流れていたそうです。山に囲まれた広大な敷地は、正直、羨ましい限りでした。

往復三〇〇キロの旅でしたが、添乗員の今村さんの軽快なお話で、あっという間でした。



南部地区文化部研修

なるほど仏教



八月二十三日（水）、本年度南部地区公民館の当番館を務める西南部公民館2階大ホールで、文化部研修会が開かれました。今回は「仏像の見方〜仏像を通じて仏教思想や仏教美術に触れる〜」と題して、金沢学院大学芸術学部非常勤講師であり石川県文化財保存修復協会理事も務める、川口法男さんにお話しいただきました。

近年、御朱印集めや寺院巡り、仏像鑑賞などがブームとなつていますが、今回、仏教の歴史、日本に入ってきてからの変遷、仏教美術の誕生やその意味について知る良い機会となりました。

仏教美術は塔を建てたことが始まりのようです。インドではこの塔のことをストウーパと言ひ、日本でお墓に立てる木の板を「そとば」と言っているのはここからきているそうです。その後「仏足跡」や「菩提樹」「法輪」などが象徴的に描かれたそうです。

お坊さんから聞くお説教とは違う仏教の話、宗教ではなく哲学・思想としての学術的な仏教の話でした。少し難

易度の高い話でしたが、お経の中に出てくる意味の分からない言葉や、日常生活にある言葉が、仏教の歴史の中にある事柄と結びついて、「なるほど」と思うことがたくさんありました。

(脇坂弘明)



輝くアイデア
あふれる刺激
今ココロ満ちるとき

十月二十一日・二十二日に西南部公民館文化祭が開催されました。模擬店やステージが行われた二十二日は、台風の接近する中での開催でしたが、多くの方に参加いただきました。雨と風の寒い一日でしたが、参加者は模擬店の料理で温まり、楽器の演奏やダンスなどの素晴らしい舞台を楽しみました。

また、館内では二十一日から写真・絵画・手芸・書道・盆栽・生け花など多くの方の力作が展示され、見る人たちを感心させていました。今年は荒天により残念ながら中止になった企画もありました。来年は晴れますように。
(堂宮孝介)



文化祭

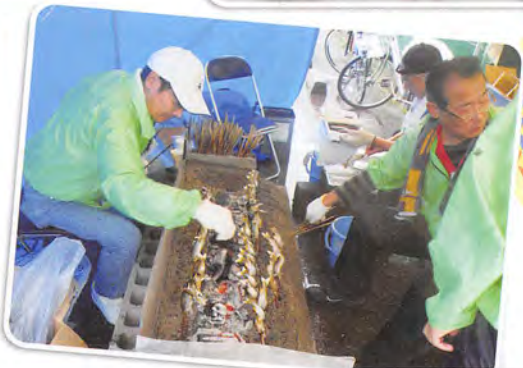
平成29年10月21日(土)・22日(日)



雨の文化祭

松山誠志(文化教養部長)

十月に入り着々と文化祭の準備を進める中、スタッフ一同がもつとも気になるのは開催当日の天気予報。「何とか雨だけは」そんな願いも届かず、台風が日本列島に接近中という悪状況の中、平成二十九年度の西南部公民館文化祭が十月二十一日・二十二日の二日間で開催されました。屋外イベントが催される二十二日、早朝からずぶ濡れで会場設置をしながら「この雨だと今日はほとんど人が来ないのでは」と不安に思いましたが、開場から間もなく、傘をさした西南部地域の方々が続々とお見えになりました。お越し頂いた皆さまから「中止かと思ったけど、来て良かった」「雨の中苦勞さん」「頑張ってるね」と暖かいお言葉を頂き、雨の降る中でも多くの方々に公民館まで足を運んで頂いて感じたことが「年に一度のこの文化祭を、西南部地域の皆さんは楽しみにしてくれているのかな」。予想を上回る来場者の数にスタッフの笑顔も絶えませんでした。今年は雨のためにテニス教室や加賀鳶はしご登りが中止となり残念でしたが、悪天候の中でも文化祭を開催できたことを嬉しく思います。来年度以降も西南部地域の皆さまが楽しみに来て頂けるイベント、スタッフも運営をしながら楽



しめるイベントにしたいと思いま
す。降りしきる雨にもかかわらずご
来場頂きました皆さま、素晴らしい
作品を出展頂きました皆さま、活気
あるステージを演出頂きました皆さ
ま、運営頂いた各団体・公民館ス
タッフの皆さま、ありがとうございました。



校下防災訓練

避難所運営の難しさを体験

十一月五日(日曜日)、西南部校下防災訓練が行われました。昨年に引き続き、避難所運営についての訓練を行いました。一〇〇名を超える参加者が、町会ごとに避難所を運営するという想定で、次々に発生する問題を協力して解決していきながら、避難所運営のノウハウを身につけていく訓練でした。参加者は、情報をしっかりと把握し、避難者にわかりやすく伝えていく事の大事さを学んだようです。(脇坂弘明)



「避難所の運営をするのはその町会の皆さんです」

小山 均(新保本町会総務)

十一月五日(日曜日)に大規模地震発生を想定した防災訓練が西南部小学校の体育館で行われました。防災訓練の中心は避難所運営ゲーム(HUG)でした。はじめにグループ内で役割分担を決めたあと、実際にゲームが始まりました。進行役の方から様々な情報が伝えられ、刻々と

変わる状況に対して、「体育館をどのように区分けするのか」「食料はどのくらい確保できているのか」「一緒に連れてきたペットはどうするのか」「トイレなどの衛生面は大丈夫なのか」など戸惑うことばかりでした。やはり大変だったのは、受けた情報を迅速に、そして正確に避難所内で共有することでした。一時間ほどのゲームだったと思いますが、終わった後に疲労感を感じるほどでした。参加した方々も大変熱心に取り組んでいました。

(金沢市役所の危機管理課の方は、防災訓練が進んでいる地域の例として、三馬小学校区をあげておられました。十月に行われた三馬小学校区での防災訓練は、半年かけて地域で作成した防災マニュアルを基にして行われたそうです。訓練後には、明らかになった問題点を整理し、マニュアルを見直していくということでした。)

冒頭の言葉は危機管理課の方が訓練後に話してくださいました。そして、次のような言葉で話を締めくくってくださいました。

「災害時は、自分の命を自分で守ることが大切です。そうすれば、命を救うことのできる人数が増えることになるのです。」

各町会の代表で当日参加された皆さん、本当にお疲れ様でした。

市民ソフトボール大会

善戦！西南部！！

準々決勝まで進出

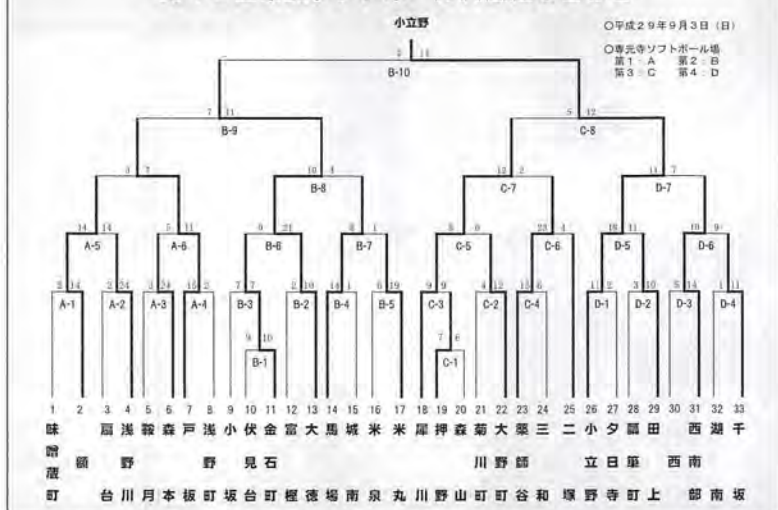
九月三日(日曜日)、専光寺ソフトボール場で第四十二回市民ソフトボール大会が行われました。西南部からは各町会から選抜された選手によるチームで参加しました。初戦は西公民館と対戦し十四対五で勝利、次戦に駒を進めました。二回戦は、湖南公民館を十一対一という大差で破って勝ち上がってきた千坂公民館との対戦でした。点を取られたら取り返すを繰り返す激しい攻防になりましたが、十対九で勝利し準々決勝に進出しました。対戦相手は一回戦は夕日寺公民館を十一対二、二回戦は田上公民館を十八対十一で破り勝ち進んできた、打撃が得意な小立野公民館でした。残念ながら西南部公民館は七対十一で敗れてしまいました。この後、小立野公民館は決勝まで進み見事優勝しました。

(脇坂弘明)



【選手の皆さん】
林郁生(監督:新八出)、大藪進二、杉岡優大(新八出)、林亮太、谷口岳、横西政明(新町東)、石井良和、犬嶋健一、谷口和明(古府二)、吉田幸市(古府一)、橋下佳明(西金3)、大崎彰太(新保本)

第42回市民ソフトボール大会組み合わせ



お楽しみ バスツアー

ゆったりと 歴史情緒を味わう



十一月十一日(土曜日)、お楽しみバスツアーが行なわれました。総勢四十八人で、今回は滋賀県の近江八幡を訪れました。

佐川美術館で目の保養をした後、近江牛のすき焼きでお腹を満たし、水郷めぐりでゆったりとした時間を過ごし、近江八幡の街並み散策で歴史情緒を味わいました。(脇坂弘明)

憧れの近江八幡、バス旅を満喫

越農 雄二(新八日市出)

今年の「お楽しみバスツアー」、いつかは行きたいと思っていた近江八幡方面でしたので楽しくバス旅を満喫しました。最初の佐川美術館では日本が世界に誇る芸術作品である「浮世絵十人絵師展」が開催されており、多色摺浮世絵を初めて誕生させた鈴木春信から、八頭身美人画の清長、余りにも有名な写楽や歌麿の役者絵や美人画、葛飾北斎や歌川広重

の名所風景画にも出会って浮世絵の美しさに感動しました。

これらの作品は切手にも多く登場しています。

また、美術館の建物も水庭に浮かぶように設計されており、周りに配置された彫刻と一体感のある美しさでした。

午後からは近江八幡水郷めぐりで、船に乗って船頭さんの説明を聞きながらヨシの群生地をゆっくり進み辺りの秋景色を楽しみました。

その後はボランティアガイドさんの案内で近江商人発祥の地を散策しその暮らしぶりを肌で感じました。写真も一杯撮りました。お土産に買ったバウムクーヘンはとってもおいしく家族にも好評でした。



出前講座

九月六日(水曜日)、花と緑の出前講座が開催されました。

この講座は、金沢市の「緑を育て金沢を美しくする会」が毎年公募で選ばれた八つの公民館に講師を派遣して寄せ植え実習を行うものです。

今年も西南部公民館が選ばれ、参加者三〇名が多肉植物の寄せ植えをたのしみました。(脇坂弘明)



町会連合会記念大会

十一月十二日(日曜日)、地場産業振興センターで金沢市町会連合会六〇周年記念大会が開催されました。席上、國分政夫さん(西金新町東)が市長表彰を、中泉俊一さん(西金沢三)と田島博樹さん(西金沢四)が会長感謝状を受けました。おめでとございます。(脇坂弘明)

特ダネ 西南部



西南部のボランティア団体

GRANDE

西南部校区にボランティア団体があるのをご存知ですか。能登半島地震をきっかけに様々なボランティア活動をやってきた鈴木成昌さんが結成したボランティアサークルです。清掃活動や福祉活動だけでなく、地域活性化のイベントなどにも積極的に参加してきて、この度、石川県健民運動推進本部から、平成二十九年度石川県健民青少年ボランティア賞を受賞し、西南部公民館にもご報告にいらっしやいました。

(脇坂弘明)



金沢マラソン

雨の金沢

丸ごと走ったぞ!



十月二十九日(日)第三回金沢マラソンが開催されました。今年も「金沢を丸ごと走る」のキャッチフレーズの元、スタートの広坂通りからゴールの石川県西部緑地公園陸上競技場までのコースを、昨年を上回る一万三千九百七十三名の健脚自慢が金沢の街並みを楽しみながら日頃の練習の成果を競いしました。西南部地区からも沢山のランナーが参加しました。

またアテネ金メダリストの野口みずきさんを始め、沢山のゲストが大会に花を添えてくれました。

当日はあいにくの雨となり厳しいコンディションとなっていました。昨年のようにゴール近くの応援スポットでは、西南部校下婦人会の皆さんの応援やチカモリ太鼓の演奏でランナーのラストスパートを後押ししました。

大会参加者の皆さん、運営、応援に携わった皆さん、お疲れ様でした。

(武藤政行)



応援が力に

齊藤 雅之(古府町南第二)

一〇月二十九日、第三回金沢マラソンに参加しました。私にとっては昨年に続き二回目の金沢マラソンです。

今年も雨天の厳しいコンディションで、私は二〇キロで足がつかない。二十八キロからは、歩くのがやっと。それでも沿道の多くの方々の応援と、ゴール直前には西南部地区の方々からも声援やハイタッチで応援して頂き、なんと今年も完走(完歩?)できました。

運営スタッフ、ボランティア、そして雨にもかかわらず応援してくださった皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



地元金沢でのマラソンは心地いい!!

長寄成任衛(新保本第二)

今年も三万人に迫る出走申し込みの中、昨年の落選を晴らすべく、一万三千人の中に当選しました。週一回の休日のみの練習で走りこみ不足と思いましたが、フルマラソンは六月に一度走ったことがあったので「完走はできる」という強い気持ちで挑みました。

当日は雨でテンションは下がり気味で早くゴールしたいという思いから

がやはり、最初は自分の想定よりハイペースになってしまい、その後の上り坂からペースがダウンし始めました。しかし金沢マラソンならではの工夫を凝らした多くの人々の応援や、たくさんの方々の声援にパワーをもらい、学童野球の子供達とハイタッチでさらに元気を注入して、大桑のトンネルを抜けた下り坂では先程までの疲れが吹っ飛んで一気にペースアップ、金沢カレーや和菓子を堪能しつつがんばれました。

ゴール近くではボランティアで参加の横西部長の姿を見つけ、私の最後の力を絞り出させてくれました。結果、自身最高の三時間四〇分でのゴールで達成感が湧き出しました。

地元金沢でのマラソンということ、非常に親しみのある地域の方々の応援が凄く勇気と緊張を和ませてくれた。この感動を今後はひとりでも多くの人に参加してもらいたいと感じました。



【編集後記】

暗いニュースの多かった二〇一七年。その中でも、若きプロ棋士の藤井聡太君の活躍は明るいニュースでしたね。さて、皆さんの二〇一七年はいかがだったでしょうか。公民館は南部ブロックの当番館として、忙しい日々を送ってまいりました。

二〇一八年、どんな年になるのか、いい年になるように祈るばかりです。

(脇坂弘明)